

いのちの言の葉 2018

富山県教育委員会 平成30年度いのちの教育総合支援事業

いのちの先生「社会福祉士」

いのちの授業
射水市立小杉小学校
平成31年2月5日実施



【授業の概要】

- ① 周りにはどもないのちがあるのか
- ② 超低体重児として生まれて
- ③ 障害を受け入れるまで
- ④ 社会福祉士としての仕事や「歩む会」での活動
- ⑤ チャレンジすることのよさ
- ⑥ 支え合って生きていく



(家族へ)

600gで生まれ、今は車いすに乗っている先生から話を聴きました。先生は初め自分が障害をもっていると感じたとき、受け入れられなかったようですが、今は、他の障害者の役に立とうとしていました。私は、今まで人の役に立とうと思って何かをしたことがあまりなかったので、すばらしいなと思いました。私も意識して困っている人を助けようと思いました。これからは、育ててくれた家族の役に立つように過ごしたいと思います。

(保護者より)

「いのちの授業」では、とても貴重で大切なお話を聴くことができましたね。障害という困難に負けず、それをバネにして誰かの役に立とうとする姿に力強さを感じずにはられません。人生は順風満帆というわけにはいかないでしょう。でも、あなたはピアノを弾いたり絵を描いたりといった特技があります。それは聞く人の耳や見る人の目を楽しませてくれ、心を癒してくれます。これもまた役に立つ生き方であり、生きている証だと思います。どうぞ自分らしく納得のいく日々を過ごせることを願っています。

(家族へ)

先生は障害をもっているのに前向きに生きているのはすごいと思いました。先生は最初、障害を認められなかったようですが、しっかりと受け止めていました。車いすに座っていても、いろんなことに挑戦していました。そんなところがカッコいいと思いました。私もいろいろなことに挑戦して、家族のみんなに輝いているところを見せたいです。

(保護者より)

最近さらに体も大きくなり、いつ身長を追いこされるかと思うほどです。これからは、心の方もますます成長してくれることをとても楽しみにしています。失敗をおそれず、何にでもトライしてみてください。目標に向かって努力し続けることが大事です。そして、周りの方に支えられていることを決して忘れないようにしてください。